



「お婆ーば、パジルは豆まきはやらぬのかなあ。」
「リョウちゃんが、説明したいじゃない。」



「お婆ーば、パジルは豆まきはやらぬのかなあ。」
「リョウちゃんが、説明したいじゃない。」



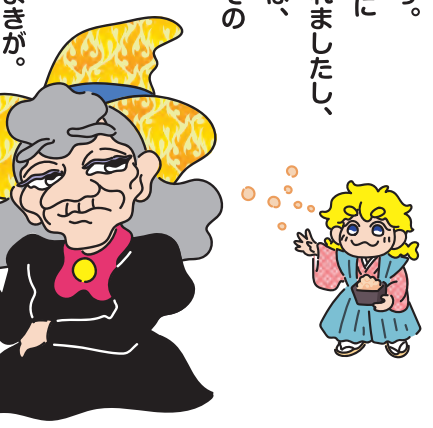
「だって、鬼より鬼っぽいんだもん。」
「さー、そろそろお昼の時間ですわね。」



「まあ、今リョウちゃんが来ているのは豆の形をしたおもちなのですね。」
「食へすぎなものもよくありませんし、食へ物を粗末にするのもよくありませんから。」



「わたしはセツコ。偉いじゃない、でござります。」
「本当は、正一位聖彌勒なんちゃらって地位にいますけど、わたしも正確な名前を忘れましたし、リョウちゃんをはじめ、みんなもお婆ーば、って呼ぶものでして。最近はおもちゃの呼ばれ方に慣れてしまいましたわ。」



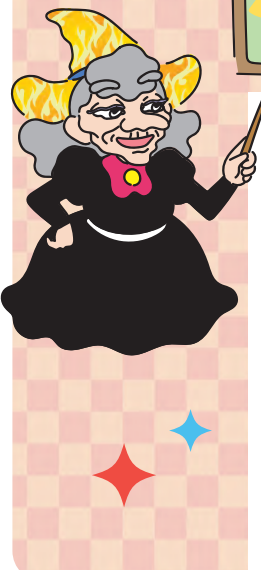
「ねえばーば、せっかくなパジルに来たんだし、日本の文化をパジルの子たちにも教えてあげようね。」
「リョウちゃんが異国の地での豆まきを提案してきます。」



Q **問題**
いくつか(1つ以上)の豆つぶが大きな皿の上に置かれています。ハトがやってきて、そのうちの何つぶかを食べてしまったので、お皿の上に、残っている豆つぶと同数の豆つぶを追加しました。再びハトがやってきて、先ほどと同じ数の豆を食べてしまったので、お皿の上に、まだ残っている豆つぶと同数の豆つぶを追加しました。またまたハトがやってきて、また先ほどと同じ数の豆を食べてしまったので、お皿の上に、まだ残っている豆つぶと同数の豆つぶを追加したところ、皿の上の豆つぶの数はちょうど最初あった豆つぶの数の2倍になりました。最初、皿の上に置かれていた豆つぶは、最も少なくて何つぶだったでしょうか。

A **問題の解答**
皿の上の豆つぶの数を□で、ハトが食べる豆つぶの数を○で表します。ハトが□だけ食べたのちに、つぶの数が2倍になるので、最初、1回目に追加した直後、2回目に追加した直後、3回目に追加した直後、のそれぞれの皿の上の豆の数を図で表し、□を○のように追加することで、あ、い、う、え、の長さは2倍ずつ増えてゆくことになります。一番下の図で、か、の長さはあ、の長さの2×2×2-1=7(倍)、つけ足されている□の個数は14個で、7と14はともに7の倍数ですから、両者の差にあたる○の長さは7の倍数とわかります。よって、○はもっとも小さくて7です。○=7として、□を3にすると、つまり、最初7個豆つぶがあって、ハトが毎回3個ずつ食べていくとすると、皿の上の豆の個数は7(→4→)8(→5→)10(→7→)14のように変わり、確かにもとの2倍になるので、答えは7(つぶ)とわかります。

日本では厄除けのために豆をまくのは、「魔を滅す」といいます。ちよとした「豆知識」でございませう。



人物紹介
未熟な魔女「まじよまじよ」を卒業するために日々奮闘中の、どこかおっちょこちょいな魔女。最近、すこすこいろいろな魔法が使えるように。目の前のものをかわいいへびに変えるのが特技。
手厳しさもあればおらかでやさしいところもある。なぜかリョウちゃんと気の合う「偉い魔女」。保護者役も兼ねる。

リョウちゃん
お婆ーば (本名はセツコ)